

2013.2.2

生誕 200 年 ワーグナーとヴェルディ 第1回 二人オペラ作曲家

プログラム

今年には音楽史上最大のオペラ作曲家と言われるワーグナーとヴェルディの生誕200年に当たります。奇しくも同じ1813年の5月22日にドイツ、ライプチヒで生まれたワーグナー。10月10日にイタリア、ブッセートで生まれたヴェルディ。二人の名作を聴きながら偉大な足跡を辿るシリーズの第1回目です。

ワーグナーは少年時代に文学に傾倒、各地の歌劇場指揮者として修行を積んだ後、自作オペラの台本はほとんど自身で書き、遂には1876年、自身のオペラ劇場、バイロイト祝祭劇場を建設するなど、音楽、文化両面で後世に大きな影響を与えました。「さまよえるオランダ人」は1941年に完成した最初の傑作で、神の怒りを買ったために荒海をさまようオランダ人船長をゼンタの献身的な愛によって救済するという北欧伝説に基づく物語で、胸に迫る劇的な表現が素晴らしく、合唱も聴きどころのひとつです。

ヴェルディは当時のイタリア独立運動の支えとなるような聴衆の心を掴む作品を次々と書き続け、遂にはイタリア・オペラの最高峰にまで上り詰めました。「椿姫」は1853年に完成した中期の作品で、華やかなパリの舞台に、病に倒れるヴィオレッタの恋愛悲恋を全編美しい旋律で叙情的に描き上げたオペラ史上屈指の名作です。聴きどころたっぷりの二作品と合わせて序曲もお楽しみください。

リヒャルト・ワーグナー (1813~1883):

歌劇“さまよえるオランダ人”～

序曲～第2幕“糸紡ぎの合唱”/“ゼンタのバラード”

“ダーラント～オランダ人とゼンタの愛の二重唱”

第3幕“水夫の合唱”

エリック、オランダ人、ゼンタの終幕の場

ワルター・フィンク(バリトン)……ダーラント/ニーナ・シュテンメ(ソプラノ)……ゼンタ

フランツ・グルントヘーバー(バリトン)……オランダ人/トルステン・ケルル(テノール)……エリック

小澤征爾指揮ウィーン国立歌劇場管弦楽団/ウィーン国立歌劇場合唱団

(2003.12.11&14 ウィーン国立歌劇場でのLive 演出:クリスティーネ・ミーリツ)

歌劇“リエッツィ”序曲

クリスティアン・ティーレマン指揮ドレスデン国立管弦楽団

(2012.10.22 NHKホールでのLive)

*** 休憩 ***

ジュゼッペ・ヴェルディ (1813~1901):

歌劇“椿姫(ラ・トラヴィアータ)”～

第1幕 前奏曲～乾杯の歌(友よ、さあ飲みあかそう)～二重唱

ああ、そは彼の人か～花から花へ

第2幕“フロヴァンスの海と陸”

セスト・ブルスカンティーニ(バリトン)……ジェルモン

ニーノ・ヴェルキ指揮NHK交響楽団

(1973.9.19 NHKホールでのLive)

第3幕“さようなら、過ぎ去った日よ”/“パリを離れて”～終幕の場

アンジェラ・グオルギウ(ソプラノ)……ヴィオレッタ/ラモン・ヴァルガス(テノール)……アルフレード

ロベルト・フロンターリ(バリトン)……ジェルモン/ナターシャ・ペトリンスキー(ソプラノ)

ロリン・マゼール指揮ミラノ・スカラ座管弦楽団/ミラノ・スカラ座合唱団

(2007.7.1 & 4 ミラノ・スカラ座でのLive 演出:リリアナ・カヴァーニ)

歌劇“シチリア島の夕べの祈り”序曲

ネッロ・サンティ指揮NHK交響楽団

(2001.11.23 NHKホールでのLive)